

価格設定

価格設定のマニュアルでは、メインメニューの「製品管理」に含まれる価格設定について説明します。価格設定では、「価格リスト」「価格リストスキーマ」「割引スキーマ」を使います。

1. 価格設定の概要

○価格リスト

製品の価格を設定するには、「価格リスト」を使います。1つの価格リストには、複数の製品が含まれていて、製品ごとに定価、標準価格、最低価格を設定することができます。

価格リストは、複数作成することが可能で、購入・販売する製品、仕入先・得意先ごとに、同じ製品に別の価格を設定することができます。

価格リストは、販売、購入するすべての製品に必要です。上書き可能な価格リストがあらかじめ設定されています。

価格リストでは、ひとつの製品に対して、定価、標準価格、最低価格の3つの価格タイプを設定します。

定価は、割引を受ける得意先に対して使われます。定価では、請求ウィンドウまたは受発注ウィンドウにある「割引を印刷」のチェックボックスを使って、割引を明細に表示するか、割引後の価格のみを表示するかを選択できます。

標準価格は、製品の価格として表示されるデフォルトの価格です。

最低価格は、この価格より低い価格が入力されるとエラーが表示される価格です。最低価格は、割引、リベートなどの後の、最終の購買費用をチェックするために使うことができます。

価格リストウィンドウでは、ひとつの価格リストに対して複数のバージョンを作成できます。価格リストバージョンは、日付の期間ごとに作成します。

最も新しい価格リストバージョンが、伝票日付に基づいて使われます。手動でバージョンを入力することも、バージョンを割引スキーマか基礎バージョンから派生させることもできます。もし基礎バージョンがなかったら、価格リストの作成に製品ウィンドウの購買タブにある情報が使われます。

販売価格リストは、購買価格リストを基にして作成できます。この方法で価格リストを構築した場合、仕入先が製品の価格を変えた時には、購買価格リストの価格を更新した後、販売価格リストの生成を再実行します。

ひとつの価格リストに、同じ製品を複数登録することはできないため、製品に複数の仕入先がある場合は、購買価格リストを複数作成する必要があります。

また、仕入先ごとに価格リストを作ることもできます。この価格リストを使うと、特定の仕入先に対して発注が作成された時、購買可能な品目のリストが、その仕入先の品目だけに制限されます。

受注ウィンドウでは価格リストを選択しますが、価格リストに載っている製品のみを明細で選択することができます。割引スキーマを使うと、数量による割引と同様に均一の割引を設定することができます。

○価格リストスキーマ

価格リストを手動で作成しない場合、価格リストの生成に「価格リストスキーマ」を使う必要があります。

す。価格リストスキーマは、価格リストに含まれる製品の価格を設定するために使われる一定のルールを設定します。

価格リストスキーマを定義した後、価格リストを作成します。価格リストウィンドウのバージョンタブにある、「価格リストを生成」ボタンで、すべての製品の価格リストを作成できます。また、取引先、製品カテゴリー、製品に対して特定の価格設定ルールを適用できます。価格リストは、通貨、交換比率、税金取り扱いを決定します。

○割引スキーマ

割引スキーマは、受注伝票や発注伝票を作成する時に割引を適用するためのルールです。

割引スキーマウィンドウで作成した割引スキーマは、取引先ウィンドウの仕入先タブにある、「発注割引スキーマ」と得意先タブにある「割引スキーマ」で選択できます。

価格リストの作成に適用する価格リストスキーマとは異なり、割引スキーマは、取引先ウィンドウの得意先タブで定義された割引設定、または割引スキーマウィンドウの設定に基づき、受発注または請求の時に適用されます。

2. 価格リストスキーマ

価格リストスキーマウィンドウでは、価格リストの設定で選択する価格リストスキーマを定義することができます。価格リストスキーマで、価格リストに含まれる製品の価格の割引率を、一括して設定することができます。

価格リストスキーマを作成または修正するには、メインメニューから製品管理 > 製品管理ルール > 価格リストスキーマをクリックして、価格リストスキーマウィンドウを表示してください。

○価格リストスキーマウィンドウ

「名前」では、価格リストスキーマの名前を入力してください。

「説明」では、任意で価格リストスキーマの説明を入力してください。

「この日から有効」では、この価格リストスキーマが有効になる日付を設定してください。

「番号付け替え」は、スキーマ明細タブのレコードにある連続番号を10,20,30,40のように10ずつ増えている状態に付け替えます。

「割引タイプ」は、現時点で選択できるのは「価格リスト」のみです。

○スキーマ明細タブ

スキーマ明細タブをクリックすると、このスキーマの価格を設定するためのスキーマ明細が表示されます。

「連続番号」は、このスキーマ明細の番号です。連続番号でスキーマ明細を計算する順番が決定されます。明細レコードの順番によって、どの明細レコードが使われるかが変わるため、製品の価格が変わることがあります。明細レコードは、連続番号が小さい順に並びます。値は、デフォルト設定では、10ずつ増加します。

参照のエリアでは、「通貨タイプ」と「交換日付」を入力してください。

「通貨タイプ」は、別の通貨で価格リストを生成する時に使われます。

「交換日付」は、日付によって通貨の交換レートをかえるために使われます。これにより、同じ通貨組み合わせに対して、複数のレートを設定できます。

「取引先」「製品」「製品カテゴリ」の項目は、このスキーマ明細の割引を適用する製品を制限するために使います。

基礎価格リストと販売価格リストを作成する時は、最初のスキーマ明細(連続番号がいちばん小さいスキーマ明細)では、これらの項目は、空白にしておいてください。これで、すべての製品に対して価格が作成されることが保証されます。その後、これらの値を設定したスキーマ明細を作ること

で、「取引先」「製品」「製品カテゴリ」に対する個別の割引を定義できます。
明細番号が大きいスキーマ明細が後に計算され、前に計算された値は、後の値で上書きされます。スキーマ明細の明細番号は、全般的な設定から特定の設定になっている必要があります。

例えば、原価が 100 の製品 A、B、C があつたとします。

連続番号 10 で、すべての製品に、20%の割引を設定します。計算された価格は、80 です。

連続番号 20 で、製品 B のみに 25%の割引を設定します。

この場合の製品価格は以下ようになります：

製品 A 80、製品 B 75、製品 C 80

2 番目の明細は、1 番目の明細で計算された結果に対してではなく、元の前価を使って計算されます。

購買価格リストを取引先ごとに分けたい場合は、まずすべての製品に基礎購買価格リストを作成してください。その後、その価格リストを基礎として使って、明細を 1 レコード作成し、特定の仕入先の価格リストを作成してください。

販売価格リストを作成する時は、特定の仕入先用の価格リストではなく、基礎購買価格リストを基礎として使ってください。

販売を行っていて仕入先からは購入しないサービスは、製品ウィンドウの購買タブで、管理者またはユーザー取引先を仕入先として設定すると、価格リストウィンドウのバージョンタブにある「価格リストを作成」ボタンを押した時に、価格を生成することができます。それぞれの価格リストに手動で価格を入力することもできます。

金額のエリアでは、価格情報を入力します。

「定価基礎」「標準価格基礎」「最低価格基礎」では、それぞれの価格の元になる価格を選択してください。基礎価格リストを作成する時、プルダウンから「定価」を選択すると製品の定価が計算に使われます。プルダウンから「最低(発注書)価格」を選択すると製品の発注伝票の価格が計算に使われます。プルダウンから「標準価格」を選択すると価格の計算は行われません。

「定価追加額」「標準価格追加額」「最低価格追加額」(サーチャージ額)の項目は、乗算の前に価格に加算される金額を示します。

「定価割引%」「標準価格割引%」「最低価格割引%」の項目は、基礎価格から減額される割引率です。マイナスの数値を入力すると価格にその割合が加算されます。

「定価最小利幅」「定価最大利幅」、「標準価格最小利幅」「標準価格最大利幅」、「最低価格最小利幅」「最低価格最大利幅」は、製品の基礎価格に対する最小の利幅と最大の利幅を設定できます。

利幅は、新しく計算された価格から、元の最低価格を減算することにより計算されます。

計算された価格は、最小または最大の利幅と一致せず、価格は利幅と一致するように調整されます。

これらの項目が 0.00 だった場合、利幅は考慮されず、この項目は無視されます。

「定価丸め」「標準価格丸め」「最低価格丸め」の項目では、適用される端数丸め方法を選択してください。

3. 価格リスト

価格リストウィンドウでは、各取引先に対する製品の価格リストを生成することができます。

発注伝票や受注伝票などでは、選択した価格リストの通貨と税金が使われます。

価格リストバージョンは、異なった日付の期間によって価格リストをバージョン別に管理するためのものです。

伝票日付に基づいて、最も新しい価格リストバージョンが使われます。

価格リストは、既存の価格リストバージョンと価格リストスキーマを使って生成することができます。

価格リストウィンドウのバージョンタブで、価格リストスキーマと基礎価格リストを選択できます。基礎価格リストは、他の価格リストバージョンが選択できます。

価格リストの設定では、まず基礎価格リストを作成します。通常は、基礎価格リストとして、購買価格リストを使用します。

最初の購買価格リストは、製品ウィンドウの購買タブにある、その取引先のための主要な価格情報を使って作成してください。製品ウィンドウで製品を追加する時に、購買タブに仕入先(取引先)と価格を入力してください。

価格リストを作成・修正するには、メインメニューから、
製品管理 > 製品管理ルール > 価格リスト
をクリックしてください。価格リストウィンドウが表示されます。

○価格リストウィンドウ

「名前」では、この価格リストの名前を入力してください。

「説明」では、この価格リストの説明を入力してください。

「アクティブ」チェックボックスでは、この価格リストが有効かどうかを設定できます。

「通貨」では、この価格リストの通貨を選択してください。「通貨」の選択は必須です。

「価格精度」では、価格計算の時に使われる小数点以下の桁数を入力してください。この値は、通貨ウィンドウで設定されている「標準の精度」とは異なります。

もし、通常は 100ドルや 1000ドルの製品を販売していて、1/2 セントなど低い価格の製品を販売するならば、価格精度は、通貨精度より大きな値にしてください。

価格精度に関わらず、受発注や請求の明細は、常に通貨精度に丸められます。

「税込価格」チェックボックスは、価格に税金が含まれる場合にチェックしてください。金額が税込み合計額になります。受発注や請求の伝票が処理される時に、税率に基づいて金額のどの割合が税金なのかが計算されます。

「価格制限を強制」チェックボックスは、価格が「最低価格」の値を下回ることを制限するかどうかを決定します。ログインしているユーザーが、最低価格を上書きすることができる権限(役割)を持っている場合、価格は、最低価格より低い受発注や請求で入力できます。

○バージョンタブ

バージョンタブでは、価格リストのバージョンごとの情報を入力します。

「価格リストスキーマ」(「割引スキーマ」)の項目では、価格リストスキーマウィンドウで設定したレコードがプルダウンに表示されます。ここで選択した価格リストスキーマを使って製品価格が計算されます。

「基礎価格リスト」の項目では、この価格リストバージョンの基になる価格リストバージョンを選択できます。これを選択すると、「価格リストを作成」ボタンの処理で、選択した価格リストが新しい価格リストの計算に使われます。基礎価格リストが選択されないと、価格リストは、製品ウィンドウの購買タブにある、定価と発注価格を基にして計算されます。(購買タブの通貨と価格リストの通貨が異なっている場合は、通貨の交換レートが設定されている必要があります)

「この日から有効」の項目は現在の日付が初期値になりますが、変更が可能です。

「価格リストを作成」ボタンでは、この価格リストバージョンで設定した内容に基づいて、価格を作成します。作成された価格は、製品価格タブに表示されます。

「価格リストスキーマ」(「割引スキーマ」)の項目で、価格リストスキーマを選択していた場合は、その価格リストスキーマのスキーマ明細で設定した値を使って、スキーマ明細の明細番号順に計算が行われます。

価格リストスキーマの詳細は、このマニュアルの価格リストスキーマの部分を参照してください。

「価格リストを作成」ボタンを押すとダイアログが表示されます。「古い/既存のレコードを削除」をチェックすると処理の際に既存のレコードを削除します。

○製品価格タブ

製品価格タブをクリックすると、生成された価格情報が表示されます。生成された価格は修正することができます。

「定価」、「標準価格」、「最低価格」を入力して上書きすることができます。

このウィンドウで価格を修正または追加した場合は、「価格リストを作成」ボタンで価格リストを生成し直した時に、修正した価格は上書きされてしまいます。価格リストスキーマを調整した方が管理が簡単になります。

3. 割引スキーマ

割引スキーマウィンドウでは、一律の割引率の割引タイプと、数量が一定を超えると割引が適用される割引タイプを選択することができます。

割引スキーマを作成・修正するには、メインメニューから、製品管理 > 製品管理ルール > 割引スキーマをクリックして、割引スキーマウィンドウを表示してください。

○割引スキーマウィンドウ

「名前」では、この割引スキーマの名前を入力してください。

「説明」では、この割引スキーマの説明を入力してください。

「アクティブ」チェックボックスでは、この割引スキーマが有効かどうかを設定できます。

「割引タイプ」では、「数量割引」か「一律の割引率」を選択してください。この項目での選択によって、表示される入力項目が変化します。

「一律の割引率」を選択した場合は、「取引先均一割引」と「一律割引%」が表示されます。

「取引先均一割引」をチェックすると、「一律割引%」は、非表示になります。この場合に適用される割引率は、取引先ウィンドウの得意先タブで設定された値に基づいて計算されます。
「一律割引%」は、この割引スキーマを参照しているすべての取引先に適用されます。

「割引タイプ」で「数量割引」を選択した場合は、「数量を基にする」「累積レベル」が表示されます。「数量を基にする」チェックボックスは、この割引スキーマが、得意先が購入する製品の数量に基づいていることを示します。
この項目がチェックされないと、割引スキーマは、得意先が購入する製品の通貨金額に基づきます。
「累積レベル」の項目では、現時点では、明細のみが選択可能です。
「番号付け替え」ボタンは、数量割引タブの明細番号を 10 ずつ増える状態に付け替えます。

○数量割引タブ

「割引タイプ」で「数量割引」を選択した場合は、数量割引タブで数量割引の設定をします。「一律の割引率」を選択した場合は、数量割引タブは使いません。

「連続番号」では、この数量割引の番号を入力してください。
「製品カテゴリー」では、この数量割引を適用する製品カテゴリーを選択してください。
「製品」は、「製品カテゴリー」で何も選択しないと、製品を指定できるようになります。製品を指定するとその製品のみをこの数量割引の対象にします。
「割引数量の値」では、段階的に割引になるための基準になる数量を入力してください。
「段階数量割引%」では、割引する割合を設定してください。

あらかじめ入力されている「5% Discount if 100+」の割引スキーマでは、製品の購入数量が 100 以上の場合、標準価格が 5%割引されます。
「取引先均一割引」チェックボックスは、この割引段階に達した場合に、取引先に対して定義された一律の割引を適用したい場合にチェックしてください。

価格リストスキーマのスキーマ明細とは異なり、より詳しいレコードが最初に定義される必要があります。
割引スキーマが使われる時、基準を満たす最初の連続番号(数量割引レコード)が使われます。
例えば、もし 10 個以上 50 個未満は 1%引き、50 個以上 100 個未満は 2%引き、100 個以上は 4%引きという設定をする場合、
以下のような設定では、望んだ結果になりません。

連続番号	割引数量の値	割引%
10	10	1.0%
20	50	2.0%
30	100	3.0%

販売個数が 60 だったとしても、最初のレコード(連続番号 10)で条件に一致してしまうため、この順番では、割引は 1%になります。
販売個数が 60 の時に 2%の割引を適用させるためには、以下の順番で数量割引を設定します。

連続番号	割引数量の値	割引%
------	--------	-----

10	100	3.0%
20	50	2.0%
30	10	1.0%

この場合は、販売個数が 60 だと最初のレコード(連続番号 10)では、条件に一致しません。次のレコード(連続番号 20)で条件に一致するので、割引は 2%になります。もし販売個数が 100 だった場合は、最初のレコードで条件が一致し、割引率は 3%になります。

4. 取引先

取引先ウィンドウでは、得意先タブで製品販売のための設定をすることができます。また、仕入先タブで仕入先に対する設定ができます。

得意先タブで、各取引先に対する価格リストと割引スキーマを選択できます。仕入先タブでは、各取引先に対する発注価格リストと割引スキーマを選択できます。

これらの項目は、発注ウィンドウや受注ウィンドウなどで、各取引先を指定したときの価格として使われます。

ここで設定した値は、デフォルト値を指定するもので、発注ウィンドウや受注ウィンドウなどで上書きが可能です。

取引先ウィンドウで割引スキーマを選択していると、その割引スキーマの設定も受注、発注、請求ウィンドウの価格に反映されます。

割引スキーマウィンドウの割引スキーマタブまたは数量割引タブで「取引先均一割引」をチェックした場合は、得意先タブで「一律割引%」の値を入力してください

例えば、取引先「JoeBlock」は、得意先タブで「割引スキーマ」に「5% Discount if 100+」、「一律割引%」に「5」が設定されています。